

医療安全トピックス TOPICS

Vol.108

慶越 真由美

日本看護協会看護開発部看護業務・医療安全課

あらゆる場における安全確保のために ～患者・利用者、家族等との情報共有～

8月号では、医療や療養の場が病院以外の在宅や介護施設等へ広がりを見せる中、今後の医療安全対策として、「組織」「(組織を動かす)ソフト」「人」への対策に加え、どこで誰が使用しても安全に取り扱ができる「物」(医薬品、医療機器等)を活用した安全対策がますます重要になることをお伝えしました。

現在、わが国で進められている誤接続防止コネクタの国際規格導入(図表1)は、接続してはならないものを物理的に接続できないような構造にすることで誤接続を防止するという、まさに「物」を活用した安全対策の1つです。

すでに先行して切り替えが進められている神経麻酔分野の製品は、使う場所が病院の手術室等と限定されています。しかし、今後切り替えが始まる経腸栄養分野では、病院だけでなく、在宅等でも取り扱いをするため、それを使う患者・利用者、家族等(人)と十分情報共有をしておく必要があります。

今回は、誤接続防止コネクタの国際規格導入を通して、在宅等での安全確保のために、患者・利用者、家族等とどのような情報共有をすればよいか考えていきます。

●経腸栄養分野の誤接続防止コネクタ切り替えについて、患者・利用者、家族等と何を共有するか

新規格と旧規格ではコネクタの形状が異なり、新規格のコネクタの口径が小さくなるため、製品切り

替えに伴うさまざまな医療安全上の懸念が予測されます。そのため、コネクタ変更について患者・利用者、家族等とリスクを含め十分な情報共有が必要です。

具体的に情報共有する事項は、新規格と旧規格の混在による非^{ひかんごう}嵌合に関することです。例えば胃瘻側が既存規格であるのに、それに接続する栄養ボトル側のチューブのコネクタが新規格という状況になった場合、接続ができず、経腸栄養療法が行えないということが予測されます。このような事態が発生しないように患者・利用者、家族等に、両者を接続する変換コネクタの準備が必要なことを説明する必要があります。あわせて、在宅等で使用している製品で切り替えが必要な製品は何か、胃瘻交換を含めた対象製品の切り替え時期について、患者・利用者、家族等のほか、ケアマネジャー等とも情報共有し、交換漏れによる既存規格と新規格の混在がないようにしましょう。

また、切り替え前までに新規格製品の接続手技や、コネクタの形状変更に伴う接続部分の洗浄方法についても指導が必要です。

さらに、口径が小さくなることにより、注入物の通過障害が考えられます。薬物については、きちんと懸濁できているか確認が必要です。あわせて、かかりつけ薬剤師と薬物の形状等についての相談をしておきましょう。また、家庭のミキサーで調理したものを注入する場合もあるので、普段の経腸栄養を